

Faculty Development FD

日本大学
FD NEWSLETTER

WINTER
2020
VOL

16



Contents

- 続報** ~全学FDワークショップ,日本大学 学生FD CHAmmit開催~
“日本大学FDラリー”がSTEP3まで進展 2
- [STEP2]FD(教育能力の開発)を企画・運営できる人材を育成
令和元年度 全学FDワークショップ開催 3
- [STEP3]「もっと大学を良くしたい!」 16学部等の学生・教職員が集合!
令和元年度 日本大学 学生 FD CHAmmit開催 4

COVER PHOTO

「建築設計製図Ⅱ」の講評会で制作した模型を用いて説明の様子。この授業では「自分の居場所をデザインする」をテーマに、自身の生活と空間との係わりについて理解を深めながら、自分のための生活空間をデザインし、図面及び模型を完成させます。(担当教員：山田義文専任講師)

続報 ～全学FDワークショップ, 日本大学 学生 FD CHAmmit 開催～ “日本大学FDラリー”がSTEP3まで進展

令和元年度より, FD推進センターは, FD活動を前進させる年間プログラム“日本大学FDラリー”をスタートしました。令和元年5月に行われたSTEP1の新任教員FDワークショップに続き, 9月にSTEP2の全学FDワークショップ, 12月にSTEP3の日本大学 学生FD CHAmmitを開催しました。こうした取組を継続し, 教職員のFD活動への意識を高め, STEP4の各学部等での実践につなげていきます。

FDラリーの全体像



“日本大学FDラリー”で深まる理解, 強まる一体感

—全学FDワークショップに, タスクフォースとして参加された教員に感想をお聞きしました—



国際関係学部 准教授
杉本宏昭

昨年は国際関係学部の@キャンパスの企画に携わり, 本年度はタスクフォースとして全学FDワークショップに参加しました。自分自身も学修方略や評価についての知識をアップデートでき, 良い経験を積むことができました。



短期大学部三島校舎 助教
安西なつめ

—昨年, 自分が参加したワークショップでは, 次から次へと課題が与えられ苦労しました。そんな私も2年連続でタスクフォースとなり, カリキュラムプランニングを俯瞰して学ぶことで, より理解が深まったと感じています。

タスクフォースとは…

ワークショップが順調に進むようにするための「支援者」。過去のFDワークショップの参加者で構成される。各回約10名の教職員が参画。

STEP 2

FD (教育能力の開発) を企画・運営できる人材を育成
令和元年度 全学FDワークショップ開催教職員が協働し、日本大学教育憲章を
意識したカリキュラム作りに挑戦

- ▲ KJ法^{*1}を用い、初年次教育の問題点を洗い出した。
- ▲ 2日間にわたり教職員は同じグループで議論を行った。

令和元年9月5日・6日、9日・10日に、日本大学会館大講堂において、全学FDワークショップが開催され、各回、各学部等から約35名の教職員が参加しました。テーマは、「大学教育における課題の解決に向けてー教育能力の開発 (Faculty Development) を企画・運営できる人材の育成ー」で、日本大学教育憲章を生かした初年次教育のカリキュラムプランニングについてのワークショップです。

2日間のワークショップは、「初年次教育の問題点」「学修目標」「学修方略」「学修評価」の4つのセッションで構成され、各セッションの冒頭にタスクフォースによるワーク内容の説明がありました。その後、グループでその内容について討議し、それを発表するという形式で進められました。

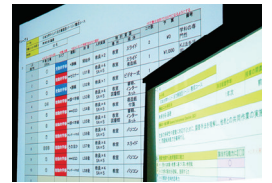
1日目は、各グループごとにKJ法と二次元展開法^{*2}を用いて初年次教育の問題点を挙げ、その問題点を解消する初年次教育科目を設定し、学修目標を立てるところまで取り組みました。グループによって課題から抽出した目標も様々で、コミュニケーション能力向上を目指すグループや問題解決

能力に焦点を当てたグループなどがありました。

2日目は、学修方略と学修評価についてのセッションが行われました。グループの討議が特に難航したのが、学修方略でした。予算や人的資源なども考慮し、行動目標に合った方略を論理的に考えねばならず、どのグループも難しさを感じていました。タスクフォースが自身の経験を交え、具体的にアドバイスしている様子も見られました。



- ▲各セッションの最後にはグループごとに発表が行われた。
- ▲学修方略や評価も各グループ様々な手法を採っていた。



また、各セッションで行われるグループ発表後には、タスクフォースから鋭い質問も相次ぎました。例えば、学修評価で、知識と技能を同じ方法で評価しているグループには、「行動目標に合わせた評価がある」と説明。また、学生の技能を評価する場合には、「教員数にも配慮する必要がある」など、細かい点についてもアドバイスがありました。

閉会式では、FD推進センター副センター長、全学FD委員会プログラムワーキンググループリーダーの河相安彦教授が「ワークショップを修了した教職員の方を中心に各学部等で@キャンパスを開催し、FD活動を推進して、次回はタスクフォースとして参加してほしい」と述べ、ワークショップは充実感につつまれ、終了しました。

*1 小集団で思考や議論をカードをもとにまとめる方法。 *2 複数のテーマを2次元平面に配置し、優先順位を検討する手法。



2日間のワークショップを終え、FDerを認定

閉会式では、輪になって着席し、参加した教職員、タスクフォースの教職員、企画・運営に関わった教職員一人ひとりが今回のワークショップの感想を述べました。そして、最後に河相副センター長から、参加者全員にワークショップの修了証が手渡されました。

修了者の声

- 新任なので、今回学んだことを踏まえ、良いカリキュラム作りに生かしたい。
- 内容が非常に濃い研修だった。理解が不十分なところは資料を見て復習したい。
- ワークショップを受講し、自分のシラバスの問題点や課題が見えてきた。

STEP 3

「もっと大学を良くしたい!」16 学部等の学生・教職員が集合! 令和元年度 日本大学 学生 FD CHAmmiT 開催

「大学とは?」について、学生・教職員混合、 学部・学科混合のチームで話し合う



令和元年 12 月 8 日、日本大学歯学部・理工学部において、令和元年度 日本大学 学生 FD CHAmmiT が開催され、各学部等から 188 名の学生と、97 名の教職員が参加しました。

本年度のテーマは「大学とは。」です。日本大学の学生・教職員・職員のそれぞれが考える「大学」について話し合い、教育改善につなげていく考えです。

「しゃべり場」と呼ばれるグループワークは、計 4 回行われました。「しゃべり場 1・2」では、自分にとって大学はどんな場所であるか、自らの意見を発表します。各回学生と教職員に分かれ、メンバーを入れ替えて話し合いました。「しゃべり場 3」は、学生・教職員が混合で、「しゃべり場 1・2」で出た意見をもち帰って語り合うという流れです。「しゃ

べり場 4」では、所属学部等に分かれて、自分たちの考える「大学とは」をまとめます。「しゃべり場」を通して自分の考えがどのように変容したか、話し合うチームもありました。ある学生は、「今は単位を取るのに精一杯ですが、教職員の方から大学時代は青春だと聞き、もう少し広い視野を持ち大学生活を楽しみたい」と感想を話していました。

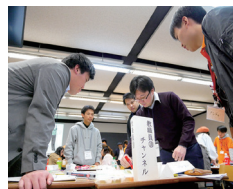
エンディングでは、3 学部の学生たちが自分の考える「大学とは」を発表しました。理工学部の学生は、「大学とは遊びのなかで物事の本質を見極め、その力を身に付ける場」と発言。それを実現するために、「学生発案型の授業を設けてほしい」と話しました。最後に、理工学部長の岡田章教授が「しゃべり場の様子を見て、教職員の会議などの業務負担を軽減し、その分このような学生との対話の場を多く設けていきたい」と述べ、学生 FD CHAmmiT を締めくくりました。



▲しおりのワークシートは、思考を整理するのに活用。
◀学生スタッフが話し合いの進行を務め、積極的に学生の意見を引き出していく。



◀多くの学生・教職員と交流できるようワールド・カフェ形式で進められた。
▼教職員グループ自身の経験から意見を述べていた。



“なんとなく”参加した方にも 気づきを得てほしい

令和元年度 日本大学 学生 FD CHAmmiT
学生スタッフ代表
磯部耕志郎 (危機管理学部3年)



会の名称にもある「CHAT」の要素を大切に、他学部の学生や教職員の方との話し合いを通して、何か気づきを得てもらいたいと考えました。積極的に大学で学ぶ前向きな学生を増やし、教育改善につなげていきたいです。

※本ニューズレターに記載した役職・資格・学年等は、令和元(2019)年12月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第16号

発行日: 令和2(2020)年1月1日[年2回発行] ©次号は令和2(2020)年5月1日発行予定
 発行所: 日本大学FD推進センター センター長 小田 司
 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
 e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/
 所管部署: 日本大学 本部 学務部学務課 企画・編集: 日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部学務課 (adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。
 本ニューズレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2019 All Rights Reserved.

